

2020 年度秋学期専門演習（第 5 回）

日 時 令和 2 年 10 月 19 日（月） 10:40~12:10
場 所 関西大学高槻ミューズキャンパス M802 教室
出席者 菅原，小林，岡部，嶋津，清水，猪田，中田，大山，中塚，長井，橋爪，芳村，
東森，野上
欠席者 なし

文責：長井

中塚「ペットフードの安全性 3」

前回の復習だが，現在調べているのは添物の「エトキシキン」であり，人の口に使っている食品には直接使用が認められていない反面，ペットフードにはより高濃度で利用されている．そこで今回は，前回の疑問として挙げた「人の口にする食品の酸化防止剤は何か」と「ペットの寿命にペットフードは関与しているのか」を調べた．第 1 に主観的に油脂の多い食品として挙げられるインスタント麺，ハム，ポテトチップスなどにはビタミン B，ビタミン C，窒素などが使われているが，インスタント麺のカップにはエトキシキンが含まれている場合もあり，安全性が確保されているのかは不確かである．次に Dr Gerad の論文によると，552 匹の犬のデータを用いた分析から犬の寿命に直接関係しているのは不妊去勢と食事であり，手作りの食事を摂り続けた犬のほうが 32 か月長く生きるということ，手作りとし販の食事を交互に摂った犬は 19 か月長生きすることなどが分かっている．今後は「エトキシキンを使用しているペットフードが寿命に関係しているのか」をもう一度調べなおすとともに，「人工添加物（エトキシキン）とビタミンの効果の違い」について調べていきたい．

猪田：ペットフードのほうが手作りの食事よりも栄養管理がなされている印象だったため，手作りの食事を食べ続けていると寿命が延びるという結果があるのは意外だった．

長井：規制をする国がペットのことをどれくらい重視しているかによって，摂取許容量にも違いがあるのではないかな？

中塚：欧州ではペットを重視する傾向が日本より強いが，日本とさほど差はみられなかった．

菅原：ペットの食事を人間と同等に扱うべきという考え方の背景には，動物愛護の思想や倫理の問題等が絡んでいる可能性がある．

岡部：手作りの食事の内容が気になる．犬の種類や食事の作り方で結果がだいぶ変わるのではないかな？

菅原：ペットの食事を手作りする家庭では，飼い主の愛情の注ぎ方が通常より強い可能性もある．引用した論文では，食事以外の要因による影響をどうやってコントロールしているかな？

中塚：引き続き英語の論文を確認してみる．

小林：32 か月とは，その犬種の平均寿命に比べてなのかな，552 匹内での平均寿命より長いのが気になった．

清水「原動機付自転車の法定速度」

原付免許は1952年に制定され、その時に法定速度30 km/hが同時に制定されたが、当時の原付に比べ現在の原付は性能が向上しており、全く別の乗り物であるといっても差支えない。こうした原付の変化に合わせて法定速度も変えるべきなのではないかと考える。二輪免許は細かい基準によって免許が変化するが、原付だけは環境や性能が変わろうと「簡単に免許が取れて簡単に乗れる存在」であり続けており、法定速度も倍違うという状況である。危険認知速度別死亡事故率のデータ（2018）を参考にすると危険度が高まるのは50 km/hの時からであり、40 km/hまでなら出してもいいのではないかと感じた。一方、WHO（2008）の論文では、30 km/h以上になると衝突した際の対歩行者の致死率が跳ね上がることを考慮すると、現在の原動機付自転車の法定速度は妥当なものではないかと感じた。今回の分析から歴史や危険認知速度の点においては原付の法定速度は妥当ではないかという結論に至ったが、やはり性能の変化に合わせて法定速度も変化するべきであると感じた。今後は「原付以外の乗り物、技術や性能の発展進化から基準が変わった事例がないか」や「自動運転技術に伴う法定速度の変化」について調べていきたい。

芳村：自分の信号機の研究も視野を広げてみる必要があると思った。

小林：性能とともに法律を変えるべきだというのは良い視点だと感じた。

菅原：危険認知速度別死亡事故率にある速度データは、「事故相手を死亡させた速度」なのか、それとも「運転者が死亡した速度」なのか？速度基準の妥当性を判断する上での根拠として引用するならば、こうした細かい点にも注目するとよい。

橋爪：現在自分も教習所に通っており、その教官が「原付の法定速度が30 km/hなのは車体が小さくてスピードに耐えられる構造になってないから」と言っていたので、原付を作る側もその法定速度に合わせた車体づくりをしているのかもしれないと思った。

菅原：進化する性能に合わせて法定速度も変化するべきという考え方は自然であり、にもかかわらず、なぜルールが変わらないのか？という切り口で研究するといいかもかもしれない。

原付と同様、技術は進歩しているのに基準が変わっていない事例を20件程度集めてみて、なぜ基準が変化しないのかの背景を調べ、それらを傾向別に分類してみるのも、おもしろい研究になる。